

1章 人間 1課 親類・友人・知人

II. 基本練習

- 1 ①ひとりっこ(一人っ子) ②なかよし(仲良し) ③つきあい(付き合い)
 ④あつまり(集まり) ⑤なつかし(懐かし) ⑥こうはい(後輩)
 ⑦しごとなかま(仕事仲間)
- 2 (1) 約束を一破る コミュニケーションを一取る 丁寧な言葉遣いで一話す
 (2) 親孝行を一する 子供のころが一懐かしい 先生に一お辞儀をする
 有名な人と一握手する
- 3 (1) ①祖先 ②夫妻 ③目上 (2) ①まるで ②たとえ ③長年
- 4 (1) 息子さん (2) 友達
- 5 (1) 遣い (2) 替えて

III. 実践練習

1. ① 2 ② 3
 2. ① 2 ② 3
 3. ① 2 ② 4
 4. ① 4* ② 3*

*①「親しい」は「(知人・友人として)仲がよい」という意味で、3のように家族や夫婦の仲がよい場合には使わない。1は「近い」や「似ている」、2は「詳しい」などが適切。

*②「お辞儀」は頭を下げるあいさつのこと。1は「お礼」、2は「謝罪」などが適切。

1章 人間 2課 人の性格・特徴

II. 基本練習

- 1 ①ユーモア ②しゃれ ③しょうぎよくてき(消極的) ④しんちょう(慎重) ⑤のんびり
 ⑥ようりょう(要領) ⑦あきる(飽きる) ⑧ちょうしょ(長所)
- 2 (1) 頼りに一なる 勘が一鈍い 気が一荒い
 (2) ユーモアが一ある 要領が一悪い はきはきと一話す 友人を一裏切る
- 3 (1) ①長所 ②見かけ ③心理 (2) ①わざと ②めっきり ③一切
- 4 (1) 明るい (2) 静か
- 5 (1) っぽく (2) 不

III. 実践練習

1. ① 1 ② 1
 2. ① 3 ② 4

3. ① 3 ② 2

4. ① 1* ② 4*

*①「裏切る」は、人との約束を破ったり期待通りにしなかったりして、信頼関係を損なうこと。2のように「予報と異なる結果になる」という意味では使わない。3は「振り返る」、4は「対立する」などが適切。

*②「頼もしい」は、「困ったときに助けを信じて頼ることができる」という意味で、2のように「うそがないから信じられる」という意味では使わない。また、「将来が頼もしい」のように「今後の活躍が期待できる」という意味もあるが、3のように、単に「いい結果を期待する」という場合は「楽しみだ」を使う。

1章 人間 3課 人に対する感情・行動

II. 基本練習

- 1 ①あこがれて ②ごかい(誤解) ③さける(避ける) ④きらう(嫌う)
 ⑤みかけて(見かけて) ⑥うらやまし ⑦もうしわけない(申し訳ない)
 ⑧とけて(解けて) ⑨なかなかおり(仲直り)
- 2 (1) うわさを一広める 恩を一感じる 恋人を一振る
 (2) 敬意を一払う 子供を一怒鳴る 愛が一冷める 誤解が一解ける
- 3 (1) ①理想 ②皮肉 ③態度 (2) ①思い切って ②ようやく ③まさに
- 4 (1) がっかりした (2) 人気がある
- 5 (1) がる (2) 的

III. 実践練習

1. ① 3 ② 4
 2. ① 4 ② 1
 3. ① 1 ② 4
 4. ① 4* ② 2*

*①「みっともない」は、「姿や服装などが、人に見られたり聞かれたりしたくないほど恥ずかしい」様子を表す。1のような場合は「見えにくい」、2は「恥ずかしい」や「照れくさい」、3は「恥ずかしい」などが適切。

*②「見かける」は、「機会があつて何かに目をとめる」という意味。1のように意識的に見る場合には使わない。3は「見破る」、4は「見つける」などが適切。

2章 生活 1課 食生活

II. 基本練習

- 1 ①さっぱり ②かおり(香り) ③しょくよく(食欲) ④ぎょうれつ(行列) ⑤しつこい
 もたれる ⑦すぎずき(好き好き)
- 2 (1) 行列に一並ぶ あめを一しゃぶる お酒を一つぐ
 (2) うちに一帰す お酒に一酔う 酔いが一さめる 食事を一味わう

3 (1) ①頭痛 ②食欲 ③原産 (2) ①しきりに ②改めて ③いくら

4 (1) ついで (2) なくす

5 (1) 産 (2) 会

III. 実践練習

1. [1] 2 [2] 4

2. [1] 3 [2] 4

3. [1] 4 [2] 3

4. [1] 4* [2] 1*

* [1] 「含む」は、「口の中に入れる」という意味以外に、「そのものの一部として中に持つ」という意味がある。1、2のように、「内部に入れることができる」という意味では使わない。3は「まとめる」などが適切。

* [2] 「追加」は、既にあるものに、後から付け足すこと。2は「余分」や「余計」、3は「添える」、4は「増える」などが適切。

2章 生活 2課 家事

II. 基本練習

1 ①ぬって(縫って) ②あんで(編んで) ③ふいて ④ぴかぴか ⑤あげた(揚げた)
⑥こんだて(献立) ⑦たく(炊く) ⑧ちらかって(散らかって)

2 (1) 肉を一蒸す かびが一生える しわを一伸ばす

(2) 野菜を一ゆでる 魚が一腐る ほうきで一掃く ミシンで一縫う

3 (1) ①献立 ②倉庫 ③衣服 (2) ①せめて ②かえって ③あらかじめ

4 (1) 抱いて (2) 乾かした

5 (1) 立て (2) 模様

III. 実践練習

1. [1] 4 [2] 1

2. [1] 3 [2] 1

3. [1] 3 [2] 2

4. [1] 3* [2] 2*

* [1] 「どける」は「場所を空けるためにものをほかの場所へ移す」という意味の他動詞。2のような場合は自動詞の「どく」を使う。1は「払う」や「取る」、4は「脱ぐ」などが適切。

* [2] 「整理」は、「乱れているものをきちんとした状態にする」という意味。「整理する」で他動詞になる。3は「整備」、4は「手記」などが適切。

2章 生活 3課 健康

II. 基本練習

1 ①こしかけ(腰掛け) ②たちあがる(立ち上がる) ③*しんさつ(診察) / しんだん(診断)
④きゅうよう(休養) ⑤たまらない ⑥すいみんぶそく(睡眠不足) ⑦ふぎそく(不規則)
⑧ちょうし(調子)

* [3] 「診察」は「病状を調べること」、「診断」は「病状を判断すること」にそれぞれ重点がある。

2 (1) せきが一出る 患者を一診る 髪を一とかす

(2) 毛が一抜ける ひげを一そる 肌が一荒れる 休養を一取る

3 (1) ①看病 ②美容 ③症状 (2) ①今に ②一応 ③当分

4 (1) 座って (2) 座って

5 (1) 不足 (2) 高

III. 実践練習

1. [1] 2 [2] 1

2. [1] 3 [2] 3

3. [1] 2 [2] 2

4. [1] 4* [2] 1*

* [1] 「伝染」は、病気の原因となる物質が体の中に入って病気になること。3のように、病気になる人間の立場から言う場合は「感染」を使う。

* [2] 「効く」は、「効果が表れる」、「十分に本来の機能を発揮する」という意味。「エアコンが効く」「わさびが効く」のように使う。3のように、「法律や規則などが効力を持つ」という意味では「有効」を使う。

3章 趣味・娯楽

II. 基本練習

1 ①おうえん(応援) ②ベテラン ③いんたい(引退) ④しばい(芝居)
⑤やくしゃ(役者) ⑥ぶたい(舞台) ⑦セリフ ⑧あらすじ(粗筋)

2 (1) 敵を一破る 勝敗が一決まる 試合を一解説する

(2) 味方を一守る 敵に一敗れる ルールに一違反する 日本語に一訳す

3 (1) ①書籍 ②文芸 ③裁縫 (2) ①実に ②まさに ③わずかに

4 (1) トレーニング (2) ステージ

5 (1) 的 (2) 訳

III. 実践練習

1. [1] 2 [2] 1

2. [1] 2 [2] 2

3. [1] 1 [2] 1

4. [1] 4* [2] 1*

* [1] 「詰める」は、「容器や穴などにものをいっぱいに入れる」という意味の他動詞。2は「書き入れる」「記入する」など、3は「つぶす」などが適切。

* [2] 「引退」は、地位・職業などから離れること。政治家やスポーツ選手が現役を辞めるときによく使われる。2のように「その大会に出ない」という場合は、「欠場」、4のように、学校を卒業する前に辞める場合は「退学」を使う。

4章 旅行 1課 旅行・交通

II. 基本練習

1 ①たいざい(滞在) ②でむかえて(出迎えて) ③にっけい(日程) ④おうふく(往復)

⑤まちあわせる(待ち合わせる) ⑥パスポート ⑦めんぜいてん(免税店)

2 (1) パスポートを一取る 道に一迷う 友人を一見送る

(2) 東京を一発つ ホテルに一滞在する 東京駅で一下車する 信号を一無視する

3 (1) ①経由 ②日帰り ③税関 (2) ①何とか ②既に ③中でも

4 (1) 通って (2) 田舎

5 (1) 機関 (2) 沿い

III. 実践練習

1. [1] 2 [2] 4

2. [1] 4 [2] 1

3. [1] 3 [2] 2

4. [1] 4* [2] 2*

* [1] 「無視」は、単に「見ない」という意味ではなく、あるものの存在を認めず、ないように扱うこと。3のように「見ないようにする」という場合は「(目を)そむける・そらす」を使う。

* [2] 「横断」には「道を横断する」のように「横切る」という意味もあるが、「大陸を横断する」のように「横方向・東西方向に通る」という意味もある。4のように南北方向に通る場合は「横断」ではなく「縦断」を使う。

4章 旅行 2課 自然

II. 基本練習

1 ①ぼんち(盆地) ②むしあつい(蒸し暑い) ③こごえる(凍える) ④みおろす(見下ろす)

⑤ながめ(眺め) ⑥すいへいせん(水平線) ⑦ふもと ⑧こうよう(紅葉)

2 (1) なだらかな一丘 温暖な一気候 まぶしい一日差し

(2) 果実が一実る あらしが一吹く 汗を一かく 地下水が一わく

3 (1) ①盆地 ②砂漠 ③地盤 (2) ①一段と ②ぼんやりと ③はるか

4 (1) 終わった (2) 少し暗く

5 (1) 真っ (2) 初

III. 実践練習

1. [1] 1 [2] 2

2. [1] 2 [2] 4

3. [1] 4 [2] 1

4. [1] 3* [2] 1*

* [1] 「凍える」は「寒くて体が動かなくなる」という意味。1、2、4は「凍る」が適切。

* [2] 「眺める」は「全体を広く見る」という意味の他動詞で、風景を見るときによく使う。2のように、「偶然見る/目に入る」という意味では「見かける」を使う。

5章 教育と仕事 1課 学校

II. 基本練習

1 ①がつか(学科) ②たんとう(担当) ③せいせき(成績) ④しんがく(進学)

⑤じっけん(実験) ⑥まとめた ⑦ろんぶん(論文)

2 (1) 試験を一採点する 文献を一引用する 単位を一取る

(2) 意見を一まとめる 結論が一出る 学力が一上がる 問いに一答える

3 (1) ①実習 ②証明 ③自習 (2) ①ひとまず ②めったに ③必死に

4 (1) 担当して (2) 覚える

5 (1) 書 (2) 目

III. 実践練習

1. [1] 1 [2] 2

2. [1] 3 [2] 2

3. [1] 2 [2] 3

4. [1] 4* [2] 1*

* [1] 「問い」は「質問・問題」と意味が似ているが、2のように「解決すべきこと」という意味はない。この場合は「問題」を使う。また、1のような「正しいかどうかかわからないこと」という意味では「疑問」を使う。3のように「する」をつけて動詞にすることはできない。

* [2] 「評価」は、ものごとや人について「価値を判断して決める」という意味。2のような使い方はできないが、「～という評価を受けている・得ている」などであれば使える。また、2の場合「評判」ならばそのままでも使える。3は「見直す」を使う。4は、「評価されている」であれば使える。または、「評判」を使う。

II. 基本練習

- 1 ①にゆうしゃ(入社) ②しゅうしょくかつどう(就職活動)
 ③いちりゅうぎぎょう(一流企業) ④げつきゅう(月給) ⑤けんしゅう(研修)
 ⑥しほんきん(資本金) ⑦けいえい(経営)
- 2 (1) お金が一もうかる 利害が一对立する 仕事を一怠ける
 (2) 夢を一追いかける 研修を一受ける 会社を一経営する いい案を一思いつく
- 3 (1) ①組織 ②利害 ③改善 (2) ①万一 ②必ずしも ③せつせと
- 4 (1) 持って (2) なった
- 5 (1) 士 (2) 引き

III. 実践練習

1. 1 3 2 1
 2. 1 3 2 2
 3. 1 2 2 3
 4. 1 4* 2 4*

* 1 「損害」は、「利益を失う」という意味だが、特に事故や災害などによる金銭面の不利益を表すことが多い。1、3のように「損害する」「損害をする」は使わない。

* 2 「あてはまる」は、「(あるものごとがほかのものごと)にちょうど合う」という意味。ただし、1のようなものの大きさや、2、3のような金額に合うという意味では使わない。

II. 基本練習

- 1 ①メディア ②ほうそう(放送) ③ながれる(流れる)・ながされる(流される)
 ④えいぞう(映像) ⑤きしゃ(記者) ⑥しゅざい(取材) ⑦きじ(記事)
 ⑧くわしく(詳しく) ⑨せいかく(正確) ⑩メディア
- 2 (1) 朝刊を一取る 音声が一流れる 話題に一上る
 (2) 事件を一取材する 広告費が一掛かる インタビューを一受ける
 注目を一浴びる
- 3 (1) ①大まか ②でたらめ ③衝撃的 (2) ①報道 ②制作 ③発行
- 4 (1) タイトル (2) ばからしい
- 5 (1) 不 (2) 人

III. 実践練習

1. 1 3 2 1

2. 1 3 2 2
 3. 1 1 2 2
 4. 1 1* 2 1*

* 1 「興味深い」は、「知的な面白さによって気持ちが引き付けられる」という意味で、2の「大笑いする」とは合わない。4は「見ている人の興味を引き付ける」や、「見ている人が興味深く感じる」であれば正しい文になる。

* 2 「宣伝」とは、商業的な目的などで広く知らせること。2にはそのような目的がないので、「伝える」「伝達する」などが適切。

II. 基本練習

- 1 ①メール ②てんぷ(添付) ③ファイル ④モニター ⑤ソフト ⑥きどう(起動)
 ⑦さいきどう(再起動) ⑧そうさ(操作) ⑨ウイルス ⑩ウイルス ⑪ソフト
 ⑫インストール ⑬しゅうり(修理) ⑭しゅうり(修理) ⑮ウイルス ⑯ソフト
 ⑰インストール
- 2 (1) メールを一送受信する プログラムを一起動する モニターを一修理する
- 3 (1) ①接続 ②削除 ③検索 (2) ①今や ②若干 ③一瞬
- 4 (1) 印刷 (2) 字の形
- 5 (1) オンライン (2) 再

III. 実践練習

1. 1 1 2 2
 2. 1 3 2 2
 3. 1 1 2 1
 4. 1 2* 2 4*

* 1 「設定」は、ある目的のために何かを作ったり決めたりすること。

* 2 「消去」は、ある事柄を考慮の対象から外すことで、情報やデータなどを消す場合によく使う。「汚れ」には「取り除く」、「予約」には「取り消す」などが適切。

II. 基本練習

- 1 ①ふさわしい ②こうさい(交際) ③しょうだく(承諾) ④せつとく(説得)
 ⑤せいだいな(盛大な) ⑥しんせき(親戚) ⑦のびのび(伸び伸び)
- 2 (1) 家庭を一築く 法事を行おう 役割を一果たす
 (2) 交際を一申し込む ストレスを一ためる 先生の死を一惜しむ 手続きを一済ませる

3 (1) ①盛大 ②豪華 ③華やか (2) ①承諾 ②解消 ③成長

4 (1) ①頑張る (2) 悲しんで

5 (1) 込んだ (2) 的

III. 実践練習

1. ① 3 ② 2

2. ① 1 ② 1

3. ① 2 ② 3

4. ① 4* ② 2*

* ①この場合の「ためる」は、「具体的なものを集めたり、蓄えたりする」という意味を表す。1は「させる」、2は「預ける」、3は「埋める」が適切。

* ②「打ち合わせ」は、「主に仕事やイベントなどの目的のために、前もって相談しておく」という意味。1は「相談」、3は「打ち上げ」、4は「申し込み」などが適切。

7章 社会 2課 事件・事故・災害

II. 基本練習

1 ①ねらった ②あう(遭う) ③うばった(奪った) ④さぎ(詐欺) ⑤ゆくえ(行方)

⑥さいはつぼうし(再発防止)

2 (1) 大雨洪水警報が一出される 火山が噴火する 土砂崩れが一起きる

(2) 災害に備える 犯罪防止に一努める 罪を一犯す 犯罪対策を一強化する

3 (1) ①そう ②直ちに ③まさか (2) ①被害 ②確保 ③保護

4 (1) 調べた (2) 食べ物

5 (1) 取り (2) 事故

III. 実践練習

1. ① 4 ② 3

2. ① 1 ② 1

3. ① 3 ② 2

4. ① 2* ② 4*

* ①「行方」は「行った先」、「進んでいく先」という意味。1は行く方法や道を指しているのので「行き方」、3は「旅行」という目的を持って行くので「行き先」、4は「息子の婚約者にはまだ会ったことがなく、彼女がどんな人なのかよく知らない」となる。

* ②「差しかかる」は、「ちょうどその場所にたどり着く」という意味。

7章 社会 3課 経済・産業

II. 基本練習

1 ①ふけいき(不景気) ②きんゆう(金融) ③けいざい(経済) ④かいふく(回復)

⑤しじょう(市場) ⑥おさめられる(納められる) ⑦ぜいきん(税金)

⑧しゅうにゅう(収入) ⑨ふたん(負担) ⑩しいられる(強いられる)

2 (1) 物価が一上昇する 利息が一付く 技術が一向上する

(2) コストを一削減する 現金を一引き出す 土を一耕す 部品を一製作する

3 (1) ①納税 ②ローン ③資産 (2) ①決して ②いったん ③主に

4 (1) 運ぶ (2) 下ろした

5 (1) 先 (2) 的

III. 実践練習

1. ① 1 ② 3

2. ① 2 ② 4

3. ① 3 ② 4

4. ① 1* ② 4*

* ①「製造」は原料に手を加えて製品にすることで、主に食品、薬、工業製品などに対して使う。2には「作る」、3には「制作する・作る」、4には「栽培する・作る・育てる」などが適切。

* ②「取引」は商業的なやり取りを表す。

7章 社会 4課 政治・法律・歴史

II. 基本練習

1 ①こっか(国家) ②とういつ(統一) ③ぎろん(議論) ④せいぎ(世紀) ⑤せいど(制度)

⑥けんぽう(憲法) ⑦さだめられて(定められて) ⑧しょくみんち(植民地)

⑨しはい(支配) ⑩きぞく(貴族) ⑪けんりょく(権力)

2 (1) 文化が一発展する 権力を一握る 援助活動を一行う

(2) 国が一滅びる 英雄が一現れる 法律が一改正される 革命が一一起きる

3 (1) ①会談 ②演説 ③証言 (2) ①どうせ ②ほぼ ③一切

4 (1) 再検討 (2) 話し合い

5 (1) 省 (2) 案

III. 実践練習

1. ① 1 ② 4

2. ① 4 ② 1

3. ① 2 ② 2

4. [1] 4* [2] 2*

* [1]「合意」は、お互いの意思が一致すること。1は「賛成」、2は「同意」、3は「一致」などが適切。

* [2]「援助」は、助けるためにものやお金を与えること。1は「保護」、3は「補佐」、4は「救助」などが適切。

8章 科学 1課 自然

II. 基本練習

- 1 ①ちきゅうおんだんか(地球温暖化) ②へんどう(変動)
 ③かんきょうほご(環境保護) ④リサイクル ⑤ペットボトル
 ⑥ぎゅうにゅうパック(牛乳パック) ⑦びん(瓶) ⑧かいしゅう(回収)
 ⑨はいしゅつりょう(排出量) ⑩せいげん(制限) ⑪げんじょう(現状)
- 2 (1) 豚を一飼育する 木を一植える つぼみが一膨らむ
 (2) えさを一やる 危害を一加える 問題を一解決する 獲物を一襲う
- 3 (1) ①騒音 ②公害 ③整備 (2) ①徐々に ②思いのほか ③ついに
- 4 (1) グループ (2) 生まれて増える
- 5 (1) 古 (2) 取り

III. 実践練習

1. [1] 4 [2] 4
 2. [1] 2 [2] 2
 3. [1] 2 [2] 1
 4. [1] 3* [2] 1*

* [1]「及ぶ」は、ある程度にまで届くこと。1は「伸びる」、2は「実現する」、4は対象が「味」なので「染みる」などを使う。

* [2]「品種」は、品物の種類のほかに動物や植物の種類を表す。2は対象が「車」なので「車種」、4はスポーツなので「種目」を使う。3は対象が人なので「品種」は使わない。「品」などが適切。

8章 科学 2課 科学・技術

II. 基本練習

- 1 ①くみかえ(組み換え) ②せいぶつ(生物) ③じんこうてき(人工的)
 ④しょうひしゃ(消費者) ⑤さくもつ(作物) ⑥せいさんりょう(生産量)
 ⑦くみかえ(組み換え) ⑧あんぜん(安全)
- 2 (1) 長い年月を一費やす ウイルスに一感染する 効率が一上がる
 (2) 手間が一掛かる 子供へ一遺伝する ニーズに一合う 標本を一収集する
- 3 (1) ①普及 ②交換 ③導入 (2) ①めざましく ②もはや ③次々に
- 4 (1) 強くて (2) 使って

- 5 (1) 性 (2) 技術

III. 実践練習

1. [1] 1 [2] 3
 2. [1] 1 [2] 3
 3. [1] 1 [2] 2
 4. [1] 3* [2] 2*

* [1]「収集」はものや情報などを集めること。1は「収容」、2は「集合」、4は「収穫」を使う。

* [2]「生産」は主に農作物や製品などを作り出すこと。1は「出産」、3は「作成」、4は「制作」を使う。

9章 抽象概念 1課 数量を表す言葉

II. 基本練習

- 1 ①ほうふ(豊富) ②とぼしい(乏しい) ③くわわる(加わる) ④こうど(高度)
 ⑤おおいに(大いに)
- 2 (1) 規模を一拡大する 経験を一積む しょう油を一足す
 (2) 需要が一増大する メンバーが一加わる 気温が四十度に一達する
 税金が一引かれる
- 3 (1) ①およそ ②ずらりと ③たっぷり (2) ①減少 ②低下 ③勘定
- 4 (1) たまに (2) 少し
- 5 (1) 疲れ (2) 大

III. 実践練習

1. [1] 3 [2] 4
 2. [1] 2 [2] 1
 3. [1] 4 [2] 1
 4. [1] 3* [2] 1*

* [1]「軽減」は「負担」などを軽くすること。

* [2]「ぎっしり」は、それ以上取まらないほどいっぱいである状態を表し、「詰まる、入る」などの動詞とよく使う。

9章 抽象概念 2課 時間・空間の言葉

II. 基本練習

- 1 ①かつて ②そうちょう(早朝) ③ひごろ(日ごろ) ④むかって(向かって)
 ⑤そのうち ⑥こんご(今後)
- 2 (1) 配置を一変える 試合を一中断する 経験を一生かす
 (2) 元の位置に一戻す チャンスを一逃す 広い範囲に一渡る 従来の考え方を一見直す

3 (1) ①かつて ②はるか ③一斉に (2) ①スペース ②チャンス ③タイミング

4 (1) 今まで同様 (2) 部分的に

5 (1) 中 (2) 以来

III. 実践練習

1. ① 2 ② 4

2. ① 1 ② 3

3. ① 4 ② 2

4. ① 4* ② 3*

* ①「月日」は「年月」と同様、ある程度まとまった長さの時間の経過を表し、「月日」が「たつ」「経過する」「流れる」「過ぎる」などの語とよく使う。1は「今日の月日は」を「今日は」、2は「月日」を「日時」、3は「生まれた月日」を「生年月日」などにするとよい。

* ②「日中」は日が出ている明るい時間帯のこと。1は「一日中」、2「毎日」、4は「昼夜」などが適切。

第2部 性質別に言葉を学ぼう

1章 意味がたくさんある言葉 1課 動詞①

I. 言葉と例文

1 全部「つかむ」ことができる。

* 「2. 言葉」「つかむ」参照。

II. 基本練習

- 1 (1) 鉛筆・骨・岩・歯・木・氷一を削る 牛乳・レモン・ジュース一を搾る
体調・バランス・姿勢・リズム一を崩す
カロリー・費用・甘さ・痛み一を抑える
(2) 規則・時間・常識・固定観念一に縛られる
親・先生・上司・命令・指示一に逆らう 胸・心・記憶一に刻まれる
試合・将来・地震・万一一に備える
(3) 敵・危険・締め切り・期日一が迫る 時計・調子・リズム・予定一が狂う
夢・才能・可能性・チャンス一をつぶす 愛情・エネルギー・全力一を注ぐ
(4) 予算・食費・睡眠時間一を削る 範囲・焦点・話題・人数・候補一を絞る
予定・計画・計算・順番一が狂う 勝利・成功・夢・チャンス一をつかむ

- 2 (1) ①a傾いて b傾き ②a逆らって・逆らい b逆らう ③a注いで b注いで
(2) ①a押さえた b押さえて ②a崩した b崩して・崩し
③a削って b削って・削り ④a狂って b狂って

(3) ①a縛られて b縛られ ②aつかんで bつかむ

③a訴えて b訴えた ④aつぶして bつぶす

(4) ①a備えて・備え b備えて ②a刻まれて b刻み

③a絞って・絞り b絞って・絞り ④a追って b追られて

III. 実践練習

1. ① 2 ② 4 ③ 1 ④ 4 ⑤ 1 ⑥ 3 ⑦ 3 ⑧ 2 ⑨ 2 ⑩ 4

2. ① 3 ② 2 ③ 3 ④ 2 ⑤ 2

3. ① 1* ② 4* ③ 1* ④ 1* ⑤ 2*

* ①「逆らう」は、①「ものごとの自然な流れと反対の方向に進む」、②「上の人や命令や指示に反対してその通りにしない」という意味がある。1は②の意味。「川の流に逆らう」「親に逆らう」「上司の命令に逆らう」のように使う。2は「傾く」、3は「訴える」、4は「反対に」が適切。

* ②「刻む」は、①「野菜などを包丁で細かく切る」、②「木や石を彫る」、③「長い間、歴史・伝統・時などを重ねていく」、④「心や記憶に強く残す」という意味がある。4は②の意味。1は「削る」、2は「つかむ」、3は「抑える」などが適切。

* ③「備える」は、①「重要なときのために準備する」、②「ものが機能や設備などをもち」、③「人が能力や知識を持つ」という意味がある。1は①の意味。③は能力や知識のように何かに役立つようなものの場合に使うので、4の「頭痛を備える」は間違い。2は「押さえる」、3は「近づく」「迫る」など、4は「訴える」が適切。

* ④「縛る」は、①「ひもなどでものが離れないように結ぶ」、②「規則などで自由に行動できないようにする」という意味がある。1は②の意味。「もの・人・人の行動・考え方」について使い、病気の症状には使わないので、4は間違い。2は「絞る」、3は「迫る」、4は「抑える」が適切。

* ⑤「つかむ」は、①「ものや人を動かしたり、動きを止めたりするために手でしっかり持つ」、②「チャンスや情報などを手に入れる」、③「ものごとの重要な点を理解する」、④「人の気持ちを自分の方に向けて夢中にさせる」という意味がある。2は②の意味。①は「五本の指を内側に曲げてものを持つ」という動作を表すので、4は間違い。④は「彼の言葉が読者の心をつかむ」のように使うので、3は間違い。1は「備える」、3は「染みる」、4は「押さえる」が適切。

1章 意味がたくさんある言葉 2課 動詞②

I. 言葉と例文

1 ぶつかる

* 「2. 言葉」「ぶつかる」参照。

II. 基本練習

- 1 (1) 経験・トレーニング・練習・訓練一を積む 水・お湯・油・泥一がはねる
ひも・縄・帯・包み・荷物一を解く ハンドル・マイク・ペン・包丁・手一を握る

おなか・財布・ポケット・パン—が膨らむ

(2) 道路・入り口・穴・血管—がふさがる なぞ・問題・パズル・疑問を一解く

夢・想像・期待・イメージ・アイデア—が膨らむ

誤解・事故・混乱・疑い—を招く 関心・信頼・期待・思い・好意—を寄せる

特徴・状況・変化・意味—をとらえる

(3) 財布・かぎ・権力—を握る 渋滞・わな・深み—にはまる

誤解・緊張・怒り—を解く 赤字・借金・予算—が膨らむ

席・部屋・電話・予定・手—がふさがる

苦情・要望・相談・感想・意見・質問—を寄せる

2 (1) ①a寄せて b寄せられて c寄せて ②a膨らんで b膨らんで c膨らんで

③aにらんで bにらんだ ④a積んで b積む

(2) ①aはねて・はね bはねて cはねて・はね ②a振って b振られて c振って

③a解いて b解いて c解き ④aとらえた bとらえて・とらえ

⑤aはまって bはまら

(3) ①a触れる b触れた ②aぶつかる bぶつかって

③aふさがって bふさがって ④a握る・握った b握って

III. 実践練習

1. 1 4 2 1 3 4 4 4 5 2 6 3 7 4 8 2 9 1

10 4

2. 1 2 2 2 3 2 4 4 5 4

3. 1 4* 2 2* 3 3* 4 3* 5 4*

* 1 「握る」は、①「手の五本の指を内側に曲げてものをしっかり持つ」、②「ものを持って何かをする」、③「ものごとを自分の思うとおりにできる何か(権力・事件のかぎなど)を持つ」、④「他人の秘密や弱みを知る」という意味がある。4は③の意味。1のように「特徴を知る」という意味では使わない。また3は「五本の指を内側に曲げて持つ」という動作ではないので間違い。1は「とらえる」、2は「逃げられる」、3は「触れる」「触る」などが適切。

* 2 「積む」は、①「ものを上に高く載せる」、②「車などにものを載せる」、③「繰り返し行って経験などを増やす」という意味がある。2は③の意味。「人を車に乗せる」という意味はないので3は間違い。1は「寄せる」「する」、3は「乗せる」、4は「振る」などが適切。

* 3 「ぶつかる」は、①「ほかの人やものに強く当たる」、②「道が途中でほかの道に出る」、③「二つ以上のものごとが同じときに重なる」、④「ものごとを進める途中で問題などが出てきて進むのが難しくなる」、⑤「ほかの人との意見が一つになるべき状況で、意見が違ってしまふ」という意味がある。3は③の意味。①は、固いものと固いものが当たる場合に使うので、2は間違い。1は「入る」、2は「はねる」、4は「ふさがる」などが適切。

* 4 「とく」は、①「結んだひもやまとめた荷物などを元に戻す」、②「クイズや問題の答えを出す」、③「人の疑いや誤解などを消す」、④「卵や絵の具などを混ぜて液体の状態にする」という意味がある。3は②の意味。2の「問題」は試験などの問題ではなく「進むときに邪魔になるもの」という意味で、その場合に「とく」は使えない。1は「招く」「される」など、2は「ぶつかる」、4は「跳ぶ」「跳ねる」が適切。

* 5 「にらむ」は、①「怖い目で見る」、②「注意してよく見る」、③「予想する」という意味がある。4は①の意味。1は「うれしそうに」とあるので間違い。1は「見る」、2は「膨らむ」、3は「つなぐ」などが適切。

1章 意味がたくさんある言葉 3課 形容詞・名詞

I. 言葉と例文

1 幅

II. 基本練習

1 (1) 純粋な—気持ち・人・恋愛 粗末な—服装・食事・ベッド

鋭い—意見・質問・批判

(2) くどい—色・味 鋭い—角・つめ・歯

純粋な—温泉・物質 穏やかな—天気・生活・海

(3) 反応・動き・動作—が鈍い 音・声・車・子供—がやかましい

息・呼吸・波—が荒い 話・説明・文章—がくどい

2 (1) ①a険しく b険しい ②a粗くて b粗い ③a恐ろしい b恐ろしく

(2) ①aくどい bくどい ②a鈍く b鈍く c鈍い d鈍い

③a荒い b荒い ④a鋭い b鋭い c鋭く d鋭い

(3) ①a粗末な b粗末に ②a純粋な b純粋な

③a穏やかな b穏やかな ④a勝手な b勝手な・勝手に c勝手

3 (1) 形 (2) 幅 (3) 波 (4) 型 (5) 文句 (6) 陰 (7) 幅 (8) 裏

(9) 波 (10) 影

III. 実践練習

1. 1 1 2 4 3 2 4 2 5 4 6 4 7 4 8 1 9 1

10 4

2. 1 4 2 3 3 2 4 1 5 3

3. 1 2* 2 2* 3 2* 4 4* 5 3*

* 1 「穏やか」は、①「海や生活などが静かで落ち着いている」、②「あまり怒ったり興奮したりしない性格をしている」という意味で、2は①の意味。「山道」「カーブ」「規則」などには使わない。1、3、4は「緩やか」が適切。

* 2 「型」は、①「同じ形のものを作るときに元にするもの」、②「共通の特徴によって分けた種類」、③「常識や伝統、規則などで決まったやり方」という意味がある。2は③の意味。3のようにものの外見を言う場合

は使わない。また、4のように「中身や内容がない様子」を言う場合にも使わない。1、3、4は「形」が適切。

* [3]「あらい」は、①「呼吸や波などの動きが激しくて大きい」、②「使い方が乱暴である」、③「切り方や網の目が細かくない」、④「作り方ややり方が丁寧ではない」という意味がある。2は④の意味。1は「荒れてしまった」、3は「荒れる」、4は「粗末」などが適切。

* [4]「険しい」は、①「山や坂が急である」、②「言葉や顔が怖い感じである」という意味がある。4は②の意味。②は「顔が険しい」「険しい顔」のように使うが、「怖い人」という意味で「険しい人」という使い方はしないので、2は間違い。1と2は「怪しい」、3は「厳しい」が適切。

* [5]「幅」は、①「横の端から端までの距離」、②「対象となる範囲」、③「二つのものの間の数や量の差」という意味がある。3は③の意味。2のように「上がったりが下がりよく変化する」という意味では使わない。また、「道の横の端から端までの距離」という意味には使えるが、4は道の横の長さではない。1は「間」、2は「波」、4は「距離」などが適切。

2章 意味が似ている言葉 1課 副詞・形容詞

I. 言葉と例文

1 「いきなり」「突然」など

II. 基本練習

- 1 (1) 常に—いつも にわかに—急に たまに—まれに 既に—もう
 (2) 一段と—更に まったく—全然 順調に—スムーズに 大いに—とても ほぼ—大体
 (3) そっくりな—似ている 危うい—危険な 騒がしい—うるさい
 思いがけない—意外な 勝手な—わがままな
 (4) 間もなく—そろそろ うっかり—つい 強引に—無理に 安易に—簡単に
 若干—少し
- 2 (1) ①ほうぼう ②相当 ③いずれ ④常に
 (2) ①相互に ②幾分 ③再三 ④案の定
 (3) ①そっくり ②シャイ ③厄介 ④まれ
 (4) ①厚かましい ②みっともない ③やかましい ④思いがけない
 (5) ①間もなく ②安易に ③すべて ④相次いで

3 (1)* ①にわかに・急に ②およそ・約 ③たびたび・よく

④あれこれ・いろいろと

(2) ①突然・急に ②あちこち・ほうぼう ③しょっちゅう・年中 ④幾分・少し

⑤再三・何度も

* (1)「にわかに」「急に」「突然」は意味が似ているが、入れ替えられない場合もある。一緒に使う言葉に注意が必要。

III. 実践練習

1. [1] 1 [2] 1* [3] 3 [4] 1 [5] 3 [6] 2 [7] 3 [8] 3 [9] 2
 [10] 3 [11] 4 [12] 1 [13] 2 [14] 4 [15] 2 [16] 1 [17] 1 [18] 2
 [19] 4 [20] 2 [21] 2 [22] 4 [23] 3 [24] 1 [25] 2

* [2]「せいぜい」はあまり多くないというニュアンスがある。「多くても」は「あまり多くない」、「少なくても」は「ある程度以上」という意味が含まれる。

2章 意味が似ている言葉 2課 名詞・動詞

I. 言葉と例文

1 見本

II. 基本練習

- 1 (1) 眺め—風景 伝言—メッセージ クレーム—文句 用途—使い道
 (2) でたらめ—本当ではない チャンス—機会 娯楽—レジャー
 打ち合わせ—ミーティング サンプル—見本
 (3) 驚く—びっくりする サポート—助け くつろぐ—リラックスする
 調整する—コントロールする がっかりする—失望する
 (4) 訂正する—直す お詫びする—謝る 持ち直す—よくなる 移転する—引っ越す
 くたびれる—疲れる

- 2 (1) ①試供品 ②きっかけ ③分野 ④チャンス
 (2) ①使い道 ②打ち合わせ ③スケジュール ④トレーニング
 (3) ①あがって ②打ち消す ③一致した ④引き返す
 (4) ①リラックスする ②驚いた ③言い張って ④持ち直した
 (5) ①転居 ②伝言 ③サポート ④レジャー

- 3 (1) ①(に)貢献する・役立つ ②(を)コントロールする・調整する ③(に)参る・負ける
 ④(を)悔やむ・後悔する
 (2) ①(を)報じる・伝える ②(が)普及する・広まる ③(を)破る・負かす
 ④(を)お詫びする・謝る ⑤(を)怠ける・サボる

III. 実践練習

1. [1] 4 [2] 1 [3] 3 [4] 3 [5] 2 [6] 2 [7] 2 [8] 1 [9] 2
 [10] 2 [11] 4* [12] 3 [13] 1 [14] 3 [15] 2 [16] 3 [17] 2 [18] 1
 [19] 4 [20] 3* [21] 2 [22] 1 [23] 2 [24] 4 [25] 1*

* [11]「一人一人の」という意味なので「それぞれの」が適切。

* [20]「くるむ」は巻くようにして包むこと。「覆う」は上から布などをかけて見えなくすること。「挟む」はものとの間にいれること。

* [25] 「冷静になれば」は「冷静な状態に変化すれば」ということなので、「落ち着いた状態になれば」の意味の「落ち着けば」が適切。「慌てなければ」は「慌てるという状態であれば」という意味なので、「冷静であれば」という表現なら入れ替えは可能。

3章 形が似ている言葉

I. 言葉と例文

1 修理

* 機械を直す場合には「修理」を使う。

II. 基本練習

- 1 (1) 頑固さ・無神経さ—にあきれる 就職・受験・人生—をあきらめる
 (2) 気軽な—料金・お店 気楽な—生活・商売 気まずい—空気・沈黙
 (3) やかましい—音・声・携帯 あつかましい—お願い・態度
 あわたましい—毎日・一日
 (4) 計画・画像—を修正する 機械・電話—を修理する 誤り・発言—を訂正する
 (5) 三分間・午後・昼—の休憩 三週間・年末年始—の休暇
 三年間・心・身体—の休養
 (6) 評判を—呼ぶ・取る 評価を—下す・与える 批判を—浴びる・強める

- 2 (1) ①有能 ②有効 ③有利 (2) ①適当 ②適切 ③適度
 (3) ①あきらめて ②あきれて ③あこがれて
 (4) ①今さら ②今にも ③今や (5) ①改正 ②改良 ③改善
 (6) ①何しろ ②何とも ③何とか (7) ①改築 ②改造 ③改革
 (8) ①たのもし ②たくましい ③やかましい

- 3 (1) ○ (2) × 未だに (3) × 評価 (4) × 適応 (5) ○ (6) ○
 (7) × 休業

III. 実践練習

1. [1] 3 [2] 4 [3] 2 [4] 3 [5] 3 [6] 2 [7] 4 [8] 1 [9] 1
 [10] 4
 2. [1] 2 [2] 1 [3] 1 [4] 3 [5] 4
 3. [1] 4* [2] 4* [3] 1* [4] 3* [5] 2*

* [1] 「有効」は「効き目がある」「役に立つ」という意味の形容詞。2のように名詞としては使わない。1は「有利」、2は「効果」、3は「有能」などが適切。

* [2] 「厚かましい」は「恥ずかしいと思う気持ちや遠慮がない」という意味。1は「暑い」、2は「忙しい」、3は「頼もしい」などが適切。

* [3] 「休憩」は「今していることを短い間だけやめて、休む」という意味。2は「休暇」、3は「休養」などが適

切。4では「期間」という言葉が使われているが、「休憩」に比べ長い時間に対して使われる言葉なので「休憩期間」とは言えない。「休憩時間」などであれば適切。

* [4] 「今や」は「今では」という意味。1は「今さら」、2は「今にも」、4は「今まで」などが適切。

* [5] 「何とか」は①「努力して何かをする」②「十分ではないが、あるレベルは超えている」という意味で、2は①の意味。1は「何だか」、3は「何でも」、4は「何か」などが適切。

4章 副詞 1課 程度、時間、頻度の副詞

I. 言葉と例文

1 「なかなか」は何かを評価するときを使う言葉で、目上の人には使わないほうがよい。

II. 基本練習

- 1 (1)* ①よほど ②ぐっと ③大いに
 (2)* ①いつの間に ②絶えず ③近々
 (3) ①終始 ②当分 ③依然

* (1) 「よほど・よっぽど」は程度を推量するときを使う。「大いに」は主に動詞を修飾する副詞。

* (2) 「いつの間に」と「いつの間にか」では使い方が異なる。「いつの間に」は、「～だろう」「～か」など、疑問の表現と一緒に使う。

- 2 (1) ①はるかに ②余計に ③何より (2) ①一段と ②めっきり ③なおさら
 (3) ①なかなか ②極めて ③相当 (4) ①まれに ②たびたび ③しきりに
 (5) ①長年 ②相変わらず ③絶えず (6) ①もはや ②あらかじめ ③従来

- 3 (1) × いったん・ひとまず (2) × めっきり・ずいぶん・とても
 (3) ○ (4) ○ (5) × しばしば (6) ○

- 4 (1) 好きになりました (2) いなくなる (3) 減少した・減った

III. 実践練習

1. [1] 1 [2] 2 [3] 1 [4] 4 [5] 2 [6] 3 [7] 4 [8] 2 [9] 1
 [10] 3
 2. [1] 3 [2] 1 [3] 3 [4] 3 [5] 4
 3. [1] 3* [2] 4* [3] 1* [4] 3* [5] 2*

* [1] 「相当」は「程度が普通より高い」という意味。1、4は「相当」の後ろに程度を表す言葉が来ていないので、「相当」が使えない。2は程度が低いことを表す文なので、「相当」が使えない。

* [2] 「今に」は「近い将来」という意味。1、2、3は現在の習慣や過去を表す文なので、「今に」が使えない。1は「急いで」、2は「いつの間にか」、3は「今まで」などが適切。

* [3] 「いったん」は「一時的に」の意味。2は「一度」、3は「一気に」、4は「一度」などが適切。

* [4] 「たちまち」は「非常に短い間に何かが行われる/起こる」という意味。1、4のような、時間が掛かる変化には使わない。1は「だんだん」、2は「もう一度」、4は「どんどん」などが適切。

* [5]「割合」は「普通予想される程度を少し超えている」という意味。1、3、4には「急激」「真冬」「記録的な暑さ」など程度を大きく超える意味の語があり、「割合」が使えない。1は「かなり」、3は「とても」、4は「更に」などが適切。

4章 副詞 2課 後ろに決まった表現が来る副詞

I. 言葉と例文 >>>

1 「さっぱり」は後ろに否定の表現が来る。(例) お客さんがさっぱり来ない。

II. 基本練習 >>>

1 (1) ①ちょうど ②なかなか ③おそらく (2) ①たとえ ②果たして ③まさか

(3) ①万が一 ②どうも ③さっぱり (4) ①まるで ②一体 ③とても

2 (1) ①大して ②めったに ③別に (2) ①ちょうど ②どうも ③あたかも

(3) ①一切 ②さっぱり ③必ずしも (4) ①たとえ ②いくら ③万が一

3 (1) × どうも・何だか (2) × 恐らく・多分・きっと (3) ○ (4) × そう

(5) ○ (6) ○ (7) × さっぱり・ちっとも

4 (1) 面白くないです (2) 母親のように (3) 当たったら

(4) しないだろう・しないと思う (5) いません

III. 実践練習 >>>

1. [1] 3 [2] 3 [3] 4 [4] 1 [5] 4 [6] 2 [7] 3 [8] 2 [9] 3

[10] 3

2. [1] 1 [2] 3 [3] 2 [4] 2 [5] 1

3. [1] 4* [2] 3* [3] 1* [4] 1* [5] 4*

* [1]「どうも」は、はっきりわからないことを推測するときを使う。1、2、3は文の終わりがそれぞれ「なければならぬ」「はずだ」「ください」となっていて、4の「ような気がする」のようにはっきりわからないことを推測するときに使われる表現ではないので、「どうも」が使えない。1は「どうしても」、2は「絶対」、3は「どうぞ」などが適切。

* [2]「まさか」はあることが起きる可能性が低く、起きないだろうと推測するときを使う。1、2、4は文の終わりがそれぞれ「に違いない」「だね」「だよ」となっていて、3の「なんて思わなかった」のようにあることが起きないということを推測する表現ではないので、「まさか」が使えない。1は「きっと」、2、3は「まさに」(第4章3課)などが適切。

* [3]「もしかしたら」は、可能性は低いが、あることが起きる可能性はあると推測するときを使う。2、3、4はそれぞれ文の終わりが「んです」「に違いない」「だ」となっていて、「かもしれない」のような可能性の低さを推測する表現ではないので、「もしかしたら」が使えない。2、4は「きっと」「多分」、3は「きっと」などが適切。

* [4]「さっぱり」は否定を強調し、「あることやものが数的にほとんどない」というときに使う。2は文の終

わりが「しまった」で、否定でなく、3、4は文の終わりが「わけがない」「来なかった」で否定だが、「数的にほとんどない」という意味を持たないので、「さっぱり」が使えない。2は「すっかり」、3は「ちゃんと」、4は「もし」などが適切。

* [5]「まるで」は「あるものやことが何かにとてもよく似ている」というときに使う。1、2、3は文の終わりが「高い」「広かった」「ような気がする」で、4の「ようだ」のような、「似ている」ことを表す表現ではないので、「まるで」が使えない。1は「とても」、2は「とても」「なかなか」、3は「きっと」などが適切。

4章 副詞 3課 まとめて覚えない副詞・その他の副詞

I. 言葉と例文 >>>

1 わざと

II. 基本練習 >>>

1 (1) ふと一気が付く・不安になる・空を見上げる

案外一簡単だ・人が多い・面白くない

あくまで一戦う・やめない・自分の意見を変えない

(2) 思い切って一挑戦する・意見を言う・高い服を買う

うっかり一間違える・忘れ物をする・寝過ごす

次第に一変化する・明るくなる・温度が上昇する

あいにく一出かけている・都合が悪い・売り切れだ

2 (1) ①とりあえず ②やむをえず ③一応 (2) ①むしろ ②かえって ③まして

(3) ①常に ②どうせ ③決まって (4) ①わずかに ②たった ③ほんの

(5) ①突如 ②早速 ③至急 (6) ①いよいよ ②ついに ③結局

(7) ①わざと ②せっかく ③わざわざ (8) ①ふと ②うっかり ③思わず

(9) ①まさに ②既に ③単に

3 (1) ○ (2) × とうとう・ついに (3) × 思い切って (4) ○ (5) × あいにく

III. 実践練習 >>>

1. [1] 3 [2] 1 [3] 2 [4] 3 [5] 3 [6] 3 [7] 4 [8] 1 [9] 2

[10] 2

2. [1] 2 [2] 2 [3] 1 [4] 3 [5] 2

3. [1] 4* [2] 2* [3] 1* [4] 3* [5] 4*

* [1]「常に」は「どんなときでも」という意味。1は「ただ」、2は「必ず」、3は「既に」などが適切。

* [2]「案外」は「予想されていることと違って」という意味。1は「思った通り」、3は「とても」、4は「かえって」などが適切。

* [3]「あくまで」は「どこまでも/最後まで何かをする」という意味で、人の意志的な行為を強調する。2の「気付いた」、4の「休みだった」は人の意志的な行為でなく、3は「ください」という指示の表現なので、「あ

くまで」が使えない。2、3は「改めて」、4は「あいにく」などが適切。

* [4]「せいぜい」は「どんなに多くても」という意味で、「あることやものの程度が高くない、数が多くない」というときに使う。1は「せめて」、2は「たった」、4は「少なくとも」などが適切。

* [5]「とうとう」は「最終的に予想した通りの結果になった」というときに使う。1は「もう一度」、2は「きやあきやあ」、3は「早速」などが適切。

5章 オノマトペ

I. 言葉と例文

1 c

II 基本練習

- 1 (1) びっしょり—ぬれる じっくり—考える ぐったり—疲れる
(2) ひっそりと—静まる しっとりと—湿っている ずっしりと—重い
ひんやりと—冷える
(3) ずばり—当てる ざっと—数える つくづく—思う のびのび—育つ
(4) ぼかぼか—温まる しみじみ—感じる のんびり—過ごす てきぱき—指示する
(5) こつこつ—続ける はきはき—答える きっぱり—断る すれすれに—近づく
(6) くよくよ—悩む くたくたに—疲れる にやにや—笑う おどおど—話す

- 2 (1) ①ぎっしり ②どっさり ③くつきり (2) ①すんなりと ②さっさと ③ぎっと
(3) ①ぼろぼろ ②すれすれ ③ほやほや (4) ①いきいき ②はきはき ③きびきび
(5) ①ぼんやり ②のんびり ③のびのび (6) ①おどおど ②そわそわ ③ひやひや
(7) ①にやにや ②いらいら ③へとへと (8) ①くよくよ ②おっとり ③ぐったり

- 3 (1) した (2) きっぱりと・きっぱり (3) 湿っている (4) だ
(5) 勉強した・本を読んだ (6) ひっそりとした

III. 実践練習

1. [1] 3 [2] 2 [3] 2 [4] 1 [5] 4 [6] 4 [7] 3 [8] 2 [9] 3
[10] 1
2. [1] 3 [2] 2 [3] 2 [4] 4 [5] 3
3. [1] 2* [2] 2* [3] 4* [4] 1* [5] 4*

* [1]「ほやほや」は「その状態になったばかり」という意味。1は「すぐ」、3は「ほかほか」、4は「すれすれ」などが適切。

* [2]「むかむか」は「怒っている」または「気持ちが悪い」という意味。1は「あっさり」、3は「にこにこ」、4は「にやにや」などが適切。

* [3]「くよくよ」は「何かをずっと気にして悩む」という意味。1は「くたくた」、2は「ごちゃごちゃ」、3は「わくわく」などが適切。

* [4]「そわそわ」は「大切なことを前にして落ち着かない」という意味。2は「ひやひや」、3は「ひっそり」、4は「すんなり」などが適切。

* [5]「せっせと」は「休まずに何かを一生懸命行う」という意味。1は「せっかく」、2は「さっさと」、3は「いちいち」などが適切。

6章 慣用表現 1課 体の言葉を使った慣用表現①

I. 言葉と例文

1 「顔を出す」は「出席する」「訪ねる」という意味。

II. 基本練習

- 1 (1) 口がうまい—口だけでほめたり、人の気分をよくするように話す
目がない—自分の気持ちがコントロールできないくらい好きである
口が軽い—おしゃべりで、言ってはいけないことも話してしまう
腕を上げる—技術などがこれまでより上達する
(2) 目を通す—全部を大体見ること 手が掛かる—とても世話が必要である
鼻が高い—自慢ができる 目に浮かぶ—状況が想像できる
耳にする—聞く・聞こえてくる
(3) 手をつける—仕事などを始める
頭が痛い—難しいことがあって、心配で悩んでいる
目を付ける—これから期待できるもの、よいものとして注目する
手を組む—協力する 頭に来る—怒る・怒りの気持ちを持つ
(4) 口が堅い—秘密など言ってはいけないことを簡単に話さない
耳を貸す—人の言うことを聞く 鼻で笑う—ばかにする
頭が固い—新しい考えなどをなかなか理解や納得しようとしな
口が重い—あまり話さない・おしゃべりではない
(5) 顔が広い—知人が多い
口が滑る—一人に話してはいけないことをうっかり話してしまう
手が出ない—自分の能力ではできない
頭を冷やす—冷静になる・気持ちを落ち着かせる 顔を出す—ある場所に行く

- 2 (1) × 手を出して (2) × 目に付く (3) ○ (4) ○ (5) × 手を貸して
(6) × 鼻で笑った (7) × 口が重い

- 3 (1) ①手 ②目 ③耳 ④口 (2) ①顔 ②口 ③手 ④鼻
(3) ①肩 ②口 ③手 ④頭

III. 実践練習

1. [1] 3 [2] 4 [3] 2 [4] 4 [5] 2

2. ① 3* ② 4* ③ 2*

* ①「組む」には、①「何かの目的のために仲間になる」、②「まとまっていないものを一つにまとめる」、③「ものを交差させる」という意味がある。3の「手を組む」は、①の意味。②の意味では、「予定を組む」「予算を組む」などのように使うが、「考え/計画を組む」とは言わない。③の意味では、「腕を組む」などのように使う。1は「子供と腕を組む」なら適切。また、「子供の手を持つ」という意味であれば、「子供と手をつなぐ」となる。

* ②「空く」は「時間や場所を取っていたものがなくなって、使えるようになる」という意味。「仕事が終わって、時間が使えるようになって暇になる」という意味では「手が空く」という慣用表現を使う。

* ③「通す」には、①「あるところから別のところまで行かせる」、②「全体を最後まで続けてする」などの意味がある。2の「目を通す」は②の意味。1は「心が通じ合う」という意味で「心を通わせる」、2は「あるところまで出かけて更に遠くまで行く」という意味で「足を延ばす」、4は「話を聞く」という意味で「耳を貸す」が適切。

3. ① 2 ② 3 ③ 1 ④ 3 ⑤ 4 ⑥ 2 ⑦ 1 ⑧ 3 ⑨ 1
⑩ 2 ⑪ 1 ⑫ 3 ⑬ 4 ⑭ 2

6章 慣用表現 2課 体の言葉を使った慣用表現②・その他の慣用表現

I. 言葉と例文

1 痛める

* 「心を痛める」は「心配する」「悲しむ」などの意味を持つ慣用表現。

II. 基本練習

1 (1) 気が散る—集中できない

心が狭い—あることへの見方が偏っていて、状況に合わせられない

気が小さい—小さいことを気にする 腹を立てる—怒る

(2) 息が切れる—息ができなくなって、苦しくなる 力を入れる—一生懸命にする

胸を張る—自信を持つ・得意になる 気に掛かる—心配になっている

心を込める—心の中を思いやりの気持ちや真心でいっぱいにして、何かをする

(3) 骨が折れる—とても難しくて苦勞する

気が進まない—あまり積極的にしようと思わない

息が長い—長い間、ずっと続いている

足を運ぶ—何かの目的があって、わざわざ行く

気が済む—満足する・心が落ち着く

(4) 胸に納める—自分の心に隠したまま、誰にも言わない 身が入る—一生懸命にする

腹が決まる—決心する 気が向く—何かをしたい気持ちになる

息が合う—何かを一緒にする調子や気持ちがぴったり合う

(5) 気を落とす—がっかりする・落ち込む

身につける—知識、技術などを自分のものにする

気が利く—細かいところにまで気が付く

名が売れる—一人に知られるようになる・有名になる

心を痛める—心配する・心に苦痛を感じる・悲しむ

2 (1) × 気を遣う (2) ○ (3) ○ (4) × 心が狭い (5) × 気が短くて

(6) × 足を引っ張られた (7) × 気が合う

3 (1)* ①足 ②身 ③気 ④名 (2)* ①心 ②気 ③息 ④力

(3) ①気 ②腹 ③首 ④骨

* 「名が売れる」「心が広い」「息が長い」などの慣用表現の場合、後ろに名詞が来ると、「名の売れた+名詞」

「心の広い+名詞」「息の長い+名詞」のように助詞「が」が「の」になることが多い。

III. 実践練習

1. ① 1 ② 4 ③ 2 ④ 2 ⑤ 3

2. ① 4* ② 2* ③ 2*

* ①「散る」には、①「花や葉が枝から落ちる」、②「集まっていたものがばらばらに分かれて、広がる」、③「気持ちがあちこちに移って落ち着かない」などの意味がある。4の「気が散る」は③の意味の慣用表現で、1のように「心が散る」とは言わない。また、②「広がる」の意味でも、「話が散る」「声が散る」という言い方はしない。

* ②「延ばす」は、①「時間や日時を遅らせる」、②「既にある道路などを更に長くする」、③「薄くする」、④「あるところまで出かけて更に先に行く」などの意味がある。④は「足を延ばす」という慣用表現のみで使う。1、3、4のような慣用表現はない。

* ③「利く」は「本来の能力、特性、機能が十分に働く」という意味。2の「気が利く」は「十分に気が付く、気を遣うことができる」の意味の慣用表現。1、3、4のような慣用表現はない。

3. ① 1 ② 4 ③ 4 ④ 3 ⑤ 1 ⑥ 3 ⑦ 2 ⑧ 1 ⑨ 3

⑩ 2 ⑪ 1 ⑫ 1 ⑬ 4 ⑭ 3

7章 語形成 1課 二つの言葉をプラス

I. 言葉と例文

1 「友達(と)話し合う」「友達(に)話しかける」

* 「話し合う」は相手と一緒に行為をするので、助詞は「と」。「話しかける」は二人のうち片方だけが相手に対して行う行為なので、助詞は「に」。

II. 基本練習

1 (1) 出した (2) 合って (3) 回って (4) 込んだ (5) かけて (6) 直す

(7) 出さないで

2 (1) ①取り上げられて ②取り入れて ③取り消さ ④取り出す

- (2) ①受け持つ ②受け入れて ③受け取って
 (3) ①組み立てて ②組み合わせて・組み合わせ
 (4) ①追い付く ②追いかけられて ③追い出されて ④追い越す
 (5) ①乗り越えて ②乗り遅れた ③乗り越して
 (6) ①引き取り ②引き出す ③引き受けて ④引き止められて ⑤引き返した
 (7) ①引っ張って ②引っかけて・引っ掛け ③引っ込んで ④引っかかれて
 ⑤引っかかって

- 3 (1) 会計係を受け持つ一担当する 発表会について打ち合わせる一相談する
 予約を取り消す一キャンセルする 条件にあてはまる一合う
 (2) 真面目な仕事ぶり一～をしている様子 きれいな色遣い一～の使い方
 出来たての料理一～ばかり 解決済みの問題一既に～した
 子供連れの客一～と一緒に

III. 実践練習

1. 1 3 2 1 3 2 4 1 5 3 6 3 7 2 8 3 9 1
 10 4

2. 1 2 2 4 3 4 4 3 5 1

3. 1 3* 2 4* 3 2* 4 2* 5 1*

* 1 「受け持つ」は「自分の責任の範囲として仕事などを引き受ける」という意味。1は「引き取る」、2は「受け取る」、4は「持つ」が適切。

* 2 「すれ違う」は「近くを通過してそれぞれ反対の方向へ行く」という意味。1は「見かける」、2は「通り過ぎる」、3は「間違え」「間違える」が適切。

* 3 「振り返る」は「後ろを見る」「過去を思い出す」という意味。1は「引き返す」「戻る」など、3は「返す」「返却する」、4は「歩き回る」などが適切。

* 4 「思い込む」は「事実・真実でないことを固く信じて疑わなくなる」という意味。1は「思う」、3は「覚えろ」、4は「思い出す」が適切。

* 5 2は「気前」、3、4は「金の使い方」などが適切。「金遣いが荒い」は「金を使いすぎる」という意味。

7章 語形成 2課 単語の前に漢字をプラス

I. 言葉と例文

- 1 (1) 未解決・未経験・未完成など (2) 未一まだ～していない
 不真面目・不注意・不景気など 不～～ではない(よくないことが多い)
 無意識・無関係・無計画など 無～～がない
 非常識・非課税など 非～～しない・～がない(よくないこととは限らない)

II. 基本練習

- 1 (1) ①無 ②未 ③非 ④不 (2) ①総 ②全 (3) ①各 ②諸 (4) ①今 ②現
 (5) ①元 ②前 (6) ①正 ②真 (7) ①逆 ②反 (8) ①別 ②異
 2 (1) ①好一悪 ②長一半 ③長一短 ④片一両
 (2) ①大・多一少 ②高一低 ③新一旧 ④重一軽
 3 超高級ホテルに泊まる。一非常に・とても
 ピアノの生演奏を聞きながら食事する。一録画や録音をしていない
 これはジャズの名曲だ。一優れた・有名な
 化粧品の主成分を調べる。一中心となる・主な
 環境問題が今後の最重要課題だ。一一番・最も
 4 (1) ○ (2) × 低 (3) × 古 (4) × 現 (5) ○ (6) × 急 (7) × 小
 (8) × 大 (9) × 不

III. 実践練習

1. 1 2 2 3 3 1 4 4 5 2 6 4* 7 2 8 1 9 4*
 10 3 11 4 12 2 13 3* 14 4 15 3 16 1 17 2 18 3
 19 1 20 1 21 2* 22 3 23 4 24 1 25 3

* 6 「正反対」は「二つのものが完全に反対の状態」という意味。「大反対」は「両親は姉の結婚に大反対だった」のように使われ、「ほかの人の意見や考えに強く反対する」という意味。

* 9 「副作用」は「薬を使ったときに、ねらった効果以外に出てくるよくない影響」という意味。「反作用」という言葉もあるが、「反作用」は「ものに力を加えたときに、ものから返ってくる力」という意味で、物理学の分野で多く使われる。

* 13 「価格が安い」という意味で「安価」という言葉もあるが、「安価格」という言葉はない。

* 21 「異」も「違」も漢字の意味は似ているが、「異分野」「異文化」など単語の前に付くのは「異」だけ。

7章 語形成 3課 単語の後ろに漢字をプラス

I. 言葉と例文

- 1 「2. 言葉」1. の語参照。

II. 基本練習

- 1 (1) ①官 ②師 ③員 ④士 ⑤者 ⑥家 ⑦業
 (2) ①金 ②料 ③代 ④費
 (3) ①所 ②街 ③場 ④地 ⑤署
 (4) ①器 ②計 ③具 ④機
 (5) ①力 ②感 ③心
 (6) ①産 ②風 ③製 ④式 ⑤用

- (7) ①法 ②制
 (8) ①帳 ②証 ③版 ④状 ⑤届
 (9) ①別 ②量 ③率 ④差 ⑤度

2 (1) 性* (2) 化* (3) 化* (4) 的*

- * (1) 「危険性」「重要性」「必要性」などのように「～性」が付くと、その語は名詞になる。
 * (2)(3) 「工業化する」「自由化する」「深刻化する」などのように「～化」が付くと、「する」を伴って動詞として使われる。
 * (4) 「基本的な」「一般的な」「社会的な」などのように「～的」が付くと、その語はな形容詞になる。

III. 実践練習

1. ① 3 ② 2 ③ 3 ④ 1 ⑤ 2 ⑥ 1 ⑦ 3 ⑧ 4 ⑨ 1
 ⑩ 4 ⑪ 3 ⑫ 2 ⑬ 4 ⑭ 2 ⑮ 4 ⑯ 3* ⑰ 3 ⑱ 4
 ⑲ 1 ⑳ 4 ㉑ 2 ㉒ 2* ㉓ 3 ㉔ 1 ㉕ 4

- * ⑯「製」は製品がつくられた国、会社、材料を表す場合に使うが、本などの出版物には使わない。「用」は使われる目的を表すためここでは間違い。
 * ㉒「実用化」は「技術や製品を実際に使えるようにする」という意味。「実用性」は「実際に使える性質」という意味で「実用性がある/ない」「実用性が高い/低い」「実用性を重視する」のように使われるが、この問題文で使うには、「実用性を高めるために研究を進めている」としななければならない。「実用的」は「実用的な製品」のように形容詞として使われ、この問題文で使う場合、「実用的なものにするために研究を進めている」となる。

7章 語形成 4課 形容詞から作る動詞と名詞

I. 言葉と例文

- 1 「温かい」→「温まる」「温める」「痛い」→「痛む」
 * ほかに「悲しい」→「悲しむ」「憎い」→「憎む」など

II. 基本練習

- 1 (1) 怪しんで (2) 早まる (3) 惜しま (4) 静める (5) 広がる (6) 丸まって
 (7) 悔やんで (8) 弱まる (9) 固まって (10) 涼み (11) 暖まらない (12) 憎んで
 (13) 速まる (14) 強まって (15) 薄めて (16) 親しんで (17) 深まる (18) 高める
 (19) 温まる (20) 広まった (21) 苦しんで (22) うらやんで (23) 痛んで
 (24) 悲しんで

形容詞	～さ	～み	形容詞	～さ	～み
楽しい	楽しさ	楽しみ	うまい	うまさ	うまみ
悲しい	(悲しさ)	悲しみ	甘い	甘さ	(甘み)
苦しい	苦しさ	(苦しみ)	辛い	(辛さ)	辛み
面白い	(面白さ)	面白み	苦い	苦さ	(苦み)
親しい	親しさ	(親しみ)	おいしい	おいしさ	——
温かい	(温かさ)	温かみ	厚い	厚さ	(厚み)
ありがたい	ありがたさ	(ありがたみ)	丸い	(丸さ)	丸み
きび寂しい	きび寂しさ	——	重い	重さ	(重み)
うれしい	(うれしさ)	——	深い	(深さ)	深み
痛い	(痛さ)	痛み	強い	強さ	(強み)
かゆい	かゆさ	(かゆみ)	弱い	(弱さ)	弱み
苦しい	(苦しさ)	苦しみ	いい	よさ	——
つらい	(つらさ)	——	大切	(大切さ)	——

* 「～み」は、「悲しい」など感情を表す語、「痛い」など感覚を表す語、「甘い」など味覚を表す語を名詞にすることができる。しかし、このような語すべてに「～み」が付くわけではないので、各語ごとに覚える必要がある。

3 (1) 厚み* (2) 弱さ* (3) 温かみ* (4) 深さ* (5) 親しみ* (6) 甘さ* (7) 親しさ* (8) 深み* (9) 弱み*

- * (1) 「厚みのある～」「厚みがある」は普通より厚いと感じる様子に使う。この問題文で「厚さ」を使う場合は、「はがきのような厚さの紙でも」となる。「厚さのある」は間違い。
 * (2) 「意志の弱さ」は「意志が弱いこと」という意味。「弱み」は「弱いところ・弱点」という意味で、「人、チーム、組織の弱み」などのように使うが、「意志の弱み」「力の弱み」のように使わない。
 * (3) 「温かみのある～」「温かみがある」は「愛情や気持ちがかもっている」という意味。何かの中に込められた人の気持ちを感じるような場合に使う。「旅先で人々の温かさに触れた」のように「温かさ」は人の愛情や気持ちそのものを表す場合に使う。
 * (4) 「深さ」は「どのくらい深いか」という意味。「深み」は「川やものごとの深くてなかなか出られないところ」や「簡単には理解できない複雑な性質」という意味。
 * (5) 「親しみ」は「親しみを覚える」「親しみをもち」「親しみを感ずる」というように使い、「自分に近い存在であるように感じる」という意味になる。
 * (6) 「甘さ」は味にも考え方にも使うのに対して、「甘み」は味にしか使わない。
 * (7) 「親しさ」は「どのくらい親しいか」という意味。
 * (8) 「味に深みが増す」は「味が(いい意味で)複雑になる」という意味。「深さ」は「味の深さに驚いた」のように、「とても深いこと」という意味で使われるが、味そのものを意味する場合は通常「深み」が使われる。
 * (9) 「弱みを握られる」は、「他人に知られると都合が悪いことを知られて、相手より弱い立場に立たされる」

という意味。

III. 実践練習

1. 1 2 2 1 3 3 4 3 5 1
2. 1 4 2 1 3 2 4 4 5 3
3. 1 2* 2 4* 3 3* 4 3* 5 2*

* 1 「弱み」は「弱いところ・弱点」という意味。ほかの人に攻められたら、立場が弱くなってしまう場合に使われる。したがって、1のような場合は使えない。3のように「それ自身が弱い」という意味でも使えない。また、4のように「野菜などが悪くなる」という意味でも使えない。

* 2 「広める」は「具体的なものの占める範囲を広くする」という意味では使わないので、ほかの選択肢は不適切。1は「広げる」、2は「広がる」、3は「広げる」が適切。

* 3 「重み」ははかりではかった重量の場合は使わない。3以外の場合は「重さ」が適切。

* 4 「涼む」は、「人が涼しい風に当たったり、日陰に入ったりして暑さを避ける」という意味。したがって、ほかの選択肢は不適切。1は「涼しくなる」、2は「冷える」、4は「涼しい」が適切。

* 5 「惜しむ」は「失うのを残念に思う／十分に出さずに済ませようと思う」という意味なので、ほかの選択肢は不適切。

模擬試験

第1回

1. 1 2 2 3 3 2 4 1 5 3
2. 1 1 2 4 3 4 4 1 5 2
3. 1 1 2 4 3 2 4 1 5 2
4. 1 1 2 2 3 3 4 4 5 4

第2回

1. 1 4 2 2 3 3 4 3 5 1
2. 1 4 2 4 3 4 4 2 5 1
3. 1 2 2 3 3 2 4 1 5 2
4. 1 2 2 4 3 1 4 2 5 3